

# 東京での展示会に チャレンジ

浅野牧場 篠内直美

いよいよ長い冬がやつてきました。そしてこのエッセイも今回で最後となります。このように牧場での生活や日々の想いを文章にする機会をいただけたことは大変ありがとうございました。とても良い経験になりました。ご紹介してくださった方や編集の方、読んでくださる皆様に本当に感謝いたします。

## Becottoが東京で 展示会を しました

今日は一回目に書いた酪農女性グループ「Becotto（ベコット）」の最近の活動についてです。Becottoは「酪農生活を楽しむ」



釧路で生きる  
酪農女性写真展 同時開催 酪農&牛乳あるある川柳展

2022.9.23(金)~10.10(日)

[会場] モンベル御徒町店サロン [参加費] 無料

主に「Becotto」メンバーによる酪農生活の写真展と、その写真を元にした川柳を読む会です。会場では、Becottoメンバーによる酪農生活の紹介や、酪農生活に関する質問に答えるQ&Aセッションなども予定されています。

### ●ギャラリートーク

9月23日(金) 11:00~12:00  
10月10日(日) 13:00~14:00

Becottoメンバーが酪農生活を紹介し、写真の講評をしながら質問を募集。以前は多く酪農生活の知識などを交換していました。

### ●釧路酪農お仕事相談会

9月30日(金) 10:00~18:00  
10月1日(土) 12:00~18:00  
10月2日(日) 10:00~18:00

酪農業者の方々と酪農生活についての相談会を行います。酪農生活を知りたい方や、酪農業者の方へ酪農生活の紹介などを交換することができます。

mont-bell salon

展示会ポスター

をモットーに活動している、阿寒・釧路地域で酪農に従事する女性五人のグループです。普段は女子会や勉強会、写真展、牛グッズの制作・販売などをし、その様子をSNSで発信しています。このような北海道の東端の小さなグループがアーティスト総合ブランド「株式会社モンベル」（以下「モンベル」）をはじめとするたくさんの方々のご協力を得て、東京のモンベル御徒町店四階サロンにて展示会を開催することができました。

催すことができました。

「釧路で生きる酪農女性写真展」と題し、「酪農＆牛乳あるある川柳展」と題し、

写真は約70点、川柳は約100点を展示しました。初日と最終日にはギャラリートークを開催し、両日とも約10名の方々に写真の説明を通じて酪農の仕事や魅力を伝えることができました。



ギャラリートークの様子

今回は「」の展示会を開催する「」になつた経緯や、どういった流れで準備をしていつたかなどを「」紹介したいと思います。

## はじまりは モンベルさんからの一言

開催のきっかけはモンベルの広報部の方（以下「B e c o o t t o」）から「東京で展示会の開催を検討する際は」「相談ください」とお声がけをいただいたいことです。B e c o o t t oは2011年の12月に「酪農＆牛乳あるある川柳コンテスト」を開催しました。全国からたくさん応募がありとても盛り上がり、3月には応募作品の展示会も行いました。ありがたいことに新聞等でも取り上げていただき、もとよりどりのあったモンベルのKさんがあなたを見て連絡をくださったのです。

そもそもモンベルとのつながりは、農林水産省の「農業女子プロジェクト」が始まりです。「農業女子プロジェクト」は、女性農業者が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を様々な企業の技術・ノウハウ・アイデアなどと結びつけ新たな商品やサービス、情報を創造し、社会に広く発信し、農業で活躍する女性の姿を多くの皆さんに知つていただくための取り組みです。（農業女子プロジェクトHPより）この取り組みの一つに、農家女性と企業がコラボして商品開発を行う「」企画がありました。そこに企業側としてモンベルが参加しており、モンベルとの商品開発プロジェクトにて私が参加するという形でつながりがスタートしました。このプロジェクトから広がってB e c o o t t oとしてもモンベルとやりとりをするようになりました。ありがとうございました」との等でB e c o o t

ての活動も見て貰っており、今回の展示会の話につながったというわけです。

これまでにないチャレンジ

もつかけとなるKさんのお声に私が「すみません食いつきました」「東京での展示会!! 地元の施設で小さな写真展などをやっていただけの私たちになんというビッグなお話!!」 東京でなんて考えてもいなかつたのですが、せっかくお声がけをいただいたいこと、さらにモンベル製品が大好きだったこともあり、モンベルと何か一緒にできることについて(?)ワクワクが大爆発!! ゼひやりたいと思ふ、すぐニベコットメンバーに相談したところ、「同じくモンベル大好きなレッド(=Red)メンバーはそれぞれに代名詞となる固有のカラーがある」を筆頭にみんな快くGOサインを出してくれ

ました。それが一〇二一年四月頭の話です。  
やると決めたはいいものの、ここから  
が大変でした。これまでB e c o n t  
oとして自分たちがやりたいことをでき  
る範囲でやってきましたが、今回はモン  
ベルという協力者がいること、東京とい  
う大都会の大きな会場で開催するといっ  
こともあり、今までと同じようにはいき  
ません。彼らにXさんからのアドバイス  
もあり、農協や関係団体、釧路市などを  
巻き込んで東京の方々に釧路の酪農や牛  
乳をPRする機会にしたいと思いまして。  
これまでの規模とは違う大きなイベント  
へのチャレンジです。

最強のカメラマンたち

東京での展示会に向けて過去の写真を  
使うのではなく、新しい写真を展示しよ  
うと思いました。これまで自分たちで撮  
りあつていましたが、今回の撮影はカメ  
ラマンにお願いしようと思いました。日  
頃からお世話になつている友達のカメラ

## これが一番大事 企画書作り

**これが一番大事 企画書作り**

誰かを巻き込むには「何を、何のため  
にしたいのか」を説明する必要がありま  
す。

マンに「こんな展示会をしようと思つているのだけど」と相談を持ちかけたところ、「おもしさう!!」とふたつ返事で協力してくれるようになりました。さうに友達にも声をかけてくれてカメラマン三人体制という最強の布陣ができました。特に二人のうちの一人は本業がデザイナーということもあり撮影だけでなく、展示のレイアウトやキャプション作りなど展示全体の構成も一緒に考えてもらいました。その上、東京にまで来てしてくれました。付けも協力してくれました。本当に感謝しかありません。ギャラリーテークも一緒にできたことは最高の思い出です。

**酪農を支える  
リアルなモデルたち**

これまでの写真展はB e c o o t t o M  
ンバーのみを写してきましたが、今回は



会場設営の様子



カメラマンさんたちと



リアルなモデルさんたち

人工授精師の仕事の様子など、よりリアルで多様な酪農現場や牧場生活の様子を撮影することができました。皆さんの生き生きとした笑顔や仕事をする姿はとても素敵で、そのおかげで素晴らしい写真がたくさん盛りになりました。

所属する阿寒農協女性部の方々や、NO SAー北海道の獣医さんや人工授精師さんにもご協力ををしていただきました。おかげで放牧地での集合写真や各牧場での作業風景、さらに獣医師や

かげで放牧地での集合写真や各牧場での作業風景、さらに獣医師や

## たくさんの協賛・協力 みんなで酪農・釧路の PRをしたい

会場が広いため、大きなパネルで展示する必要がありました。大きなパネルを用意するには予算が必要です。そこでこの展示に協賛してくれる団体を探すことになりました。これまでのBeecottoの活動を知っている団体もあり（活動してきて良かったと思った瞬間でした）、企画書とともに展示会の目的や熱意を伝えると協力に前向きな意向を示してくれました。ただお金をくださいとお願いして、はい分かりましたと出してもういふほど出くわはありません。どうすれば協賛してもらえるのか。いろいろな団体にお話をしに行ってわかったことは、各団体によって協力できる形が違うところ。例えば、お金は出せないが物資や人員は

出せるところ。または、その団体のPRや、やっている事業に繋がるものであれば協賛できる等、協力しやすいものがそれになりました。そこで会場に協賛スペースを設けることに、「せつかく東京で展示会をするので、一緒に釧路や酪農をPRしませんか」というお願いの仕方に変更しました。その結果として協賛金や交通費、準備や片付けのための人員、釧路や酪農PRのための広報物など、様々な形でたくさんの団体さんに協力してもらえることになりました。



△協賛スペース



△展示会場

**自分の心が動いたものを  
形にしてみる**

今年はこの展示会を頑張ろうと走り続けてきたので、無事に終わってホッとしています。本当にたくさんの方々と共に作り上げられたので感謝と充実感でいつ

出せるとこうじる。または、その団体のPRや、やっている事業に繋がるものであれば協賛できる等、協力しやすいものがそれになりました。そこで会場に協賛スペースを設けることに、「せつかく東京で展示会をするので、一緒に釧路や酪農をPRしませんか」というお願いの仕方に変更しました。その結果として協賛金や交通費、準備や片付けのための人員、釧路や酪農PRのための広報物など、様々な形でたくさんの団体さんに協力してもらえることになりました。

ぱいです。地元での巡回展など、展示する機会があることも嬉しいです。勢いでのスタートでしたがやって良かったです。準備作業は企画書作りから始まり、写真撮影の日程合わせ、撮影、写真のレタッチ(編集)、展示レイアウト、写真選び、印刷・パネル制作、キャプション作り、プロローグやプロフィール、備品発注、ポスター制作、告知、東京行きの算段、展示物の発送、会場での設営や片付けの段取り、ギャラリートークの内容決め、協賛集め、メディア対応などなど。さうに丸一日かかった前日の設営や開催後の片づけ、報告書作り、お礼の挨拶回りなど、いつもやって振り返ってみると大変そう、真似できないと思われるかもしれません。しかし当初はこんなことになるとは予想できていなかつたですし、もし大変さをわかつていたらやっていかつたかもしません。でも「やってみ

たい!!」と自分の心が動いたものに対しても頑張れたことは誇りに思います。やってみたいことはあるんだけど…と躊躇してしまう人がいるなら、とにかくまず人に伝えてみたり、形にしてみたり(今回で言うと企画書)することをぜひして欲しいです。その一步が「おもしろそう!」と協力してくれる人や「応援したい!」と言つてくれる人につながつていくんだと思います。

とても嬉しいです。全ては酪農とBeeオッテをやってきたおかげです。仲間となり本当になんでもできる感じます。私たちの活動が誰かの何かにつながればと願いつつ、今後も活動を続けていきたいです。

## やまざき

### 斎内直美さん

昭和62年生まれ、兵庫県神戸市出身。  
大学院卒業後、三重県の農業資材関連の会社に就職。

農業資材を販売するうちに自分でも農業をやりたくなる。

そんな時に大学時代の先輩に声をかけられ酪農界に転職。

酪農をしながら日中は趣味の野菜栽培や狩猟、釣りなどを楽しむ。

阿寒・釧路地域の酪農女性グループ「Becotto(ベコット)」の代表でもある。



改めて展示会をやって本当にやかつたのです。たくさんの方々と関わったことが